

全国温泉地満足度ランキング・総合部門ベスト10

最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した」温泉地^{*2}

1年間の訪問者100人以上(単一回答)(122温泉地)

順位	温泉地名	都道府県	満足度(%)	集計対象数
1	乳頭温泉郷	秋田県	97.8	178
2	ウトロ温泉	北海道	96.0	101
2	奥飛騨温泉郷	岐阜県	96.0	297
4	登別温泉	北海道	95.0	464
5	蔵王温泉	山形県	94.8	271
6	草津温泉	群馬県	94.6	944
6	万座温泉	群馬県	94.6	258
6	黒川温泉	熊本県	94.6	298
9	八幡平温泉郷	岩手県	94.3	141
9	南阿蘇温泉郷	熊本県	94.3	210
9	山鹿・平山温泉	熊本県	94.3	210

秘湯部門ベスト10

1年間の訪問者数が50人以上100人未満(単一回答)(70温泉地)

順位	温泉地名	都道府県	満足度(%)	集計対象数
1	上天草温泉郷・下田温泉	熊本県	95.7	93
2	日光湯元温泉	栃木県	94.9	99
3	白骨温泉	長野県	94.6	74
4	高湯温泉	福島県	94.3	87
5	わいた温泉郷	熊本県	93.3	90
6	秋田八幡平温泉郷	秋田県	92.9	70
7	あつみ温泉	山形県	92.2	64
7	湯野浜温泉	山形県	92.2	51
9	能登半島国定公園 氷見温泉郷	富山県	91.9	62
10	土湯温泉	福島県	91.5	94

おすすめしたい穴場温泉地ランキングベスト10

これまで行ったことがある温泉地に対して

「おすすめしたい穴場温泉地」の推奨率^{*3}(複数回答5つまで)

順位	温泉地名	都道府県	推奨率	集計対象数	昨年順位
1	乳頭温泉郷	秋田県	30.2%	544	1 →
2	ぬかびら源泉郷	北海道	27.4%	144	9 ↑
3	下風呂・薬研温泉	青森県	25.9%	107	6 ↑
4	肘折温泉	山形県	24.8%	112	7 ↑
5	山鹿・平山温泉	熊本県	24.7%	218	2 ↓
6	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	24.2%	375	7 ↑
7	小安峡温泉・秋の宮温泉	秋田県	23.9%	85	10 ↑
7	秋山郷	長野県	23.9%	28	58 ↑
9	高湯温泉	福島県	23.7%	142	10 ↑
10	長湯温泉	大分県	23.5%	184	12 ↑

^{*1} 最近1年間=2024年8月~2025年8月ごろ

^{*2} 満足度=「とても満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「とても不満」のうち、「とても満足」「やや満足」と答えた人の割合を合わせて算出

^{*3} 推奨率(%) = おすすめしたい穴場温泉地の回答数÷訪問経験がある温泉地の回答数

全国温泉地 1年間の訪問経験ランキングベスト20

最近1年間^{*1}に「行ったことがある温泉地」(複数回答)

(n=12,595)

順位	温泉地名	都道府県	集計対象数	昨年順位
1	箱根温泉	神奈川県	1179	1 →
2	別府温泉郷	大分県	1005	5 ↑
3	熱海温泉	静岡県	1000	2 ↓
4	草津温泉	群馬県	944	3 ↓
5	伊香保温泉	群馬県	720	4 ↓
6	道後温泉	愛媛県	674	6 →
7	下呂温泉	岐阜県	632	8 ↑
8	有馬温泉	兵庫県	595	7 ↓
9	由布院温泉	大分県	480	31 ↑
10	湯河原温泉	神奈川県	465	11 ↑
11	登別温泉	北海道	464	10 ↓
12	定山渓温泉	北海道	459	12 →
13	石和温泉	山梨県	448	9 ↓
14	嬉野温泉	佐賀県	411	14 →
15	伊東温泉・宇佐美温泉	静岡県	389	15 →
16	湯の川温泉	北海道	369	18 ↑
17	秋保温泉	宮城県	363	16 ↓
18	城崎温泉	兵庫県	351	17 ↓
19	加賀温泉郷	石川県	346	13 ↓
20	鳥羽温泉郷	三重県	339	23 ↑

2強から3強の時代へ? 別府温泉郷が初の2位を獲得

ここ数年、僅差での首位争いが繰り広げられていた「全国人気温泉地ランキング」。トップに輝いたのは、3年連続となる草津温泉。続いて別府温泉郷が昨年の5位からアップし、初の2位を獲得。ここ10年、2強で固定化していた草津温泉、箱根温泉に割って入る形となった。30位までの顔ぶれに変化はないが、5位の由布院温泉、13位の伊香保温泉、38位の宇奈月温泉がそれぞれ6ランクアップしている。

「全国温泉地 1年間の訪問経験ラ

ンキング」では、箱根温泉が調査開始以来、1位をキープ。

「全国温泉地満足度ランキング」総合部門では、乳頭温泉郷が1位。他ランキングに比べ、順位の変動が大きいランキングだが、秘湯部門は上天草温泉郷・下田温泉が久々のランキンで1位となった。

「おすすめしたい穴場温泉地ランキング」は4年連続で乳頭温泉郷がトップ。2位のぬかびら源泉郷は、大いに自然に囲まれ豊富な湯量が魅力。ランキング新設以来、上位に位置していたが、今回は7ランクアップした。また、今年から対象温泉地に加わった三重城温泉が11位に入った。

全国人気温泉地ランキングベスト50

これまでに行ったことがある温泉地のうち

「もう一度行ってみたい」温泉地

(複数回答5つまで)(n=12,595)

順位	温泉地名	都道府県	集計対象数	昨年順位
1	草津温泉	群馬県	2462	1 →
2	別府温泉郷	大分県	2243	5 ↑
3	箱根温泉	神奈川県	2131	2 ↓
4	道後温泉	愛媛県	1709	3 ↓
5	由布院温泉	大分県	1687	11 ↑
6	登別温泉	北海道	1506	4 ↓
7	有馬温泉	兵庫県	1242	6 ↓
8	下呂温泉	岐阜県	1169	9 ↑
9	熱海温泉	静岡県	1160	8 ↓
10	黒川温泉	熊本県	1104	7 ↓
11	城崎温泉	兵庫県	969	10 ↓
12	乳頭温泉郷	秋田県	880	12 →
13	伊香保温泉	群馬県	757	19 ↑
14	和倉温泉	石川県	721	13 ↓
15	指宿温泉	鹿児島県	669	14 ↓
16	蔵王温泉	山形県	657	17 ↑
17	洞爺湖温泉	北海道	655	20 ↑
18	奥飛騨温泉郷	岐阜県	651	15 ↓
19	玉造温泉	島根県	643	21 ↑
20	定山渓温泉	北海道	609	16 ↓
21	奥入瀬渓流温泉・十和田湖畔温泉	青森県	608	22 ↑
22	加賀温泉郷	石川県	586	18 ↓
23	嬉野温泉	佐賀県	582	23 →
24	秋保温泉	宮城県	559	27 ↑
25	湯の川温泉	北海道	547	26 ↑
26	万座温泉	群馬県	529	28 ↑
27	雲仙温泉	長崎県	526	24 ↓
28	阿寒湖温泉	北海道	524	25 ↓
29	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	519	29 →
30	銀山温泉	山形県	498	30 →
31	霧島温泉	鹿児島県	431	31 →
32	湯河原温泉	神奈川県	422	33 ↑
33	四万温泉	群馬県	394	36 ↑
34	飛騨高山温泉	岐阜県	385	32 ↓
35	あわら温泉	福井県	360	38 ↑
36	層雲峡温泉	北海道	341	34 ↓
37	三朝温泉	鳥取県	331	42 ↑
38	宇奈月温泉	富山県	327	44 ↑
39	白浜温泉	和歌山県	326	37 ↓
40	鳴子温泉郷	宮城県	323	41 ↑
41	修善寺温泉	静岡県	321	46 ↑
42	花巻温泉郷	岩手県	310	43 ↑
43	十勝川温泉	北海道	308	39 ↓
44	鬼怒川温泉	栃木県	307	40 ↓
45	白骨温泉	長野県	301	35 ↓
46	皆生温泉	鳥取県	292	49 ↑
47	富士河口湖温泉郷	山梨県	286	50 ↑
48	淡路島の温泉	兵庫県	282	48 →
49	石和温泉	山梨県	267	44 ↓
50	二セコ温泉郷	北海道	263	47 ↓

ランキングに変動あり

躍進する別府温泉郷

その湯力・底力とは?

今年で20回目を迎えた「じゃらん人気温泉地ランキング」。全国1万2595人の投票により、334の温泉地から各ランキングが決定。近年、上位を占める温泉地はおなじみの顔ぶれとなっていたが、今回は大きな変動が見られた。支持され、ランクアップに繋がっていったその秘密を探ってみよう。

じゃらん人気温泉地ランキング2026 調査概要と回答者プロフィール

調査概要

調査期間 2025年9月1日(月)~13日(土)

調査対象 2024年8月~2025年7月までに『じゃらんnet』を利用した会員

調査方法 インターネット上でのアンケートを実施

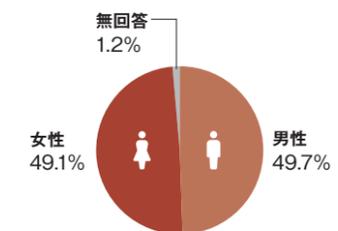
有効回答数 1万2595人

対象温泉地 全国の334温泉地(除く東京都)を調査対象とした

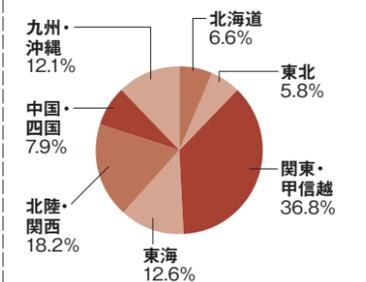
※シガラ黄金温泉、三重城温泉(ともに沖縄県)を新規追加

回答者プロフィール (n=12,595)

性別



居住地域



全国人気温泉地ランキング/
全国温泉地 1年間の訪問経験ランキング

第2位

別府温泉郷

大分県

今年の5位から、 別府温泉郷の 今とこれから

日本有数の源泉数と豊富な湧出量を誇る別府温泉郷。調査開始以来、「全国人気温泉地ランキング」では常に7位以内をキープ。初の2位に躍り出た実力派の、湯力を活かし底力を見せつけることに繋がった動きや、直面している課題への取り組みを追っていく。



湯けむりが上がる鉄輪温泉

別府八湯MAP



どの取り組みによってランクアップした、というのが断定しづらい、というのが正直なところだ（別府市観光課 牧宏爾さん）。今回のランクを押し上げた内訳を見てみると、年代別では20代で昨年の8位から6位へ、30代で昨年の8位から3位、40代・50代・60代でそれぞれ昨年5位から2位へアップしている。居住地別では、九州・沖縄で昨年3位から1位へ、中国・四国で昨年2位から1位へ、関東・甲信越では9位から4位、東海では10位から5位、北陸・関西では6位から3位とほとんどの地域でアップ。また、最近1年間について尋ねる「全国温泉地 1年間の訪問経験ランキング」でも、昨年の5位（627票）から2位（1005票）へ票数を大きく伸ばして上昇している。

「全国人気温泉地ランキング」では、もう一度行ってみたい温泉地を選んだ理由として、「交通」「街の雰囲気」「自然」「観光スポット」「効能や泉質」など、12項目から複数回答5つまでを尋ねている。かつて、箱根温泉が不動の1位だった時代には、主だった項目を備えたバランス型が強いと言われていた。しかし、上位に変動が起きて以降の上位温泉地は、まず「街の雰囲気」、次に「効能や泉質」または「自然」が選ばれ、「交通」の順位は下がっている。つまり魅力と思えば訪れ、満足すれば「また行きたい」と思われている。ちなみに北海道居住者のランキングでは、道内の温泉地が上位を占めるのが恒例となっており、今回も1位から6位までは北海道の温泉が独占しているが、続く7位に登場しているのが別府温泉郷だ。

この実力派温泉は最寄りの空港からはおよそ1時間。新幹線も通らないが、足を運ばせ、もう一度行ってみたいと感じさせる。

広範囲にわたる温泉地としての課題も抱えながら進む別府温泉郷。人気が上昇への取り組みを限定できないのであれば、多面的な取り組みの総合力か。戦略や課題など、別府温泉郷の今とこれからを追っていく。

教えていただきました



別府市観光課観光政策係 松岡愛さん
温泉課参事 釘宮誠治さん
観光課長 牧宏爾さん



別府市観光協会 事務局長 佐藤大輔さん



悠彩の宿 望海代表、全旅連理事、大分県旅館ホテル組合連合会専務理事 木村大成さん

別府温泉郷は、有効回答数1万2595票のうち、2243票を獲得。昨年度の有効回答数は1万2594票。総票数がほとんど変わらない中で、昨年より940も票を伸ばし、もう一度行ってみたい温泉地として「全国人気温泉地ランキング」の2位となった。

市内に点在する8つの温泉（別府八湯）からなり、源泉数は国内の約1割にあたる2800を超え、湧出量は毎分約10万3000リットル。10種類ある泉質のうち、別府温泉郷では7種類が確認されている。起源は8世紀頃と言われているが、国内に温泉地が数多くある中でその存在を一躍有名にしたのは「山は富士 海は瀬戸内 湯は別府」という、油屋熊八による約100年前のキャッチ

コピーだろう。まだ今ほど交通網や情報網が発達していない時代から名湯として知られてきた別府温泉郷は、「全国人気温泉地ランキング」上位の常連。しかし、ここ10年、2強が固定化してただけに、その他の温泉地が割って入るのはなかなか難しいと思われる。この躍進に繋がったのだろうか。

「コロナ禍前からも、常に新しい取り組みをバージョンアップしながら行ってきました。総合的に考えて、



別府駅にある油屋熊八像。別府を有名にするために、様々なことを行った

玄関口・別府駅でプッシュ型の観光案内所が旅行者をサポートする

スマートフォンを操作し、人と関わることなく手元だけで情報を収集できる、現在。しかし、旅情に誘われてその地に赴き、自分のペースや目的に合わせて観光を楽しみたいと思ったら、そこで頼りになるのはアナログ、つまりダイレクトな現地の声やおもてなしの力が大きいのではないか。そう実感させてくれるのが、「別府駅交流型観光案内所 WANDER COMPASS」

「別府の観光案内において、ワンダーコンパスは非常に重要な存在です」（牧さん）。

取材時、別府駅前に到着後、公共交通機関を使って鉄輪温泉、明礬温泉、別府地獄めぐりに出かけるため、アクセスを尋ねにワンダーコンパスを訪れた。観光客が質問する内容は、多くの場合、共通しているだろう。

「JNTO認定外国人観光案内所」の表彰で、2023年度「連携強化部門」で1位を、2024年度は「訪日客へのホスピタリティ部門」を受賞



別府観光では外せない地獄めぐりより、血の池地獄（下左）と海地獄（下右）



昔ながらの風情が残る鉄輪温泉は観光地としても人気



広範囲にわたる観光スポット 二次交通解決に向けライドシェアを導入

九州圏内からのマイカーや、空港からレンタカー利用以外の人にとって、広範囲にわたる別府の観光で頼るのは二次交通。八湯だけとってみても、広く点在しており、交通手段が必須。バスは別府駅前から、各方面に出ているが、行き先によっては途中で乗り換えが必要となる。コロナ禍に減ったバスの路線や本数は現

雑誌風の観光情報サイト「別府たび」で 特集記事を毎月発信

別府市には温泉のみならず、観光施設や街中のスポットも豊富。2023年にサイトをリニューアルし、情報発信にさらに力を入れるようになった。自治体で作る観光情報サイトとしては珍しく、雑誌風の作り。加えて毎月、趣向を凝らした特集記事を組み、行政ほか市内の観光事業団体など官民一体となり、市内の学生や、前述のワンダーコンパスも情報を提供するなど、色々な切り口で別府の魅力を発信している。

「ターゲットは20代、30代の女性。記事への流入状況を見ながら、ピンポイントでの広告配信を観光DXの取



2024年、公益社団法人日本アドバイザーズ協会デジタルマーケティング研究機構主催「第12回Webグランプリ」の【企業グランプリ部門】企業BtoCサイト賞にて「優秀賞」を受賞

高付加価値化事業で宿はアップグレード 地元経営者減少による悩みも

高付加価値化事業により、別府でも多数の宿泊施設が改装を行った。「その中でも令和4年(2022年)は、外装についての規定があり、それを受けて弊社や近隣の宿でも町づくりを意識して入口や外装を変え、お客さまが、街の雰囲気が変わったと感じられるように心がけました」(悠彩の宿望海 木村大成さん)。



町づくりを意識した、悠彩の宿 望海の外観

これまで設備投資をできている宿が少なかったが、温泉付き客室やユニバーサルルームを作ったり、ロビーや玄関周りの改装を行いアップグレードした宿泊施設が増えたという。「別府は連泊が少ないんです。福岡まで2時間の距離で、九州は巡りやすいので周遊ができてしまう。滞在日数の増加は、別府だけではなく、まず大分県内で連泊してもらおう仕掛けができればと思っています」(木村さん)。

それでも駅前側にある北浜の商店街を復活させるために動くなど、地元の協力を得ながら、少しずつ変えていく方向に向かっているという。

別府市内で旅館組合に加盟している施設は約120。じゃらんnet

にはさらに多くの宿が参画しており、新規参入も増えている。しかしその状況には課題も出はじめている。

「市街地は温泉地としての情緒に乏しいため、これからは町づくりをし

Comment

「今回、2位という評価をもらいましたが、取り組みの結果として、さらに順位が上がっていただければ幸いです。生活の中に根付いている別府の温泉が、訪れる観光客の助けも借りながら、共同温泉の利用や、宿泊日数の増加・単価の向上などにより持続可能性を高めていければと思っています」(牧さん)。



しで、別府の好感度がまず上がることは間違いない。

「業務」という感覚よりも、自分の持っている英語などのスキルも使っておもてなしたい、という意識を持った人が集まっていて、いい意味でおせっかいに接客してくれる観光案内所なのです」(牧さん)。

前身はボランティア団体が運営していた外国人客向けの観光案内所という。毎年約16万人が利用する中で、その半分が外国人。スタッフには、英語はもちろん韓国語、中国語、タイ語や、1人で3カ国語を話す人も。別府市には約半数が留学生という立命館アジア太平洋大学(APU)があり、国際交流をしながら学んでいる大学生や卒業生もここで活躍。このAPUも含めたインターンの受け入れも毎年行っており、プラン作成、接客案内など、次の世代の観光人材育成にも力を入れている。

また、ここでは、別府市内だけではなく、大分県内の他エリアの観光案内も行う。

「別府を拠点にした広域観光への連携にも力を入れています。コロナ禍で観光客が少なかった時期を利用するなど、スタッフは県内の他の観光地を実際に見て回って、リアルな知識で案内をしています」(牧さん)。



別府港には国際観光船の停泊が年々増加。到着時には、船籍に合わせた言語を話せるAPUの学生を配置して、臨時観光案内所を作って対応。一度でも来航した船からは高い評価を得ている

温泉を100年先まで守るために ジモ泉や資源を活用

豊富な湯量と多彩な泉質。別府温泉ファンの裾野を広げるのにひと役買っているのが2001年から続いている「別府八湯温泉道」だ。市営温泉、共同温泉、宿泊施設の温泉など約150施設が参画。そのうちの88カ所を巡ると「温泉道名人」として認定されるというスタンラリー。「数があるからこそできる企画ですが、通う温泉が決まっている地元の人達が達成するのはなかなか大変です」(観光課 松岡愛さん)。



別府温泉郷のシンボリック的存在、竹瓦温泉。内湯のほか、砂湯もある



別府はアーティストが集まる街でもある。壁画が描かれているジモ泉も(写真は末広温泉) 大平由香理「由布岳」2015 撮影/久保貴史 ©NPO法人 BEPPU PROJECT

ちなみに観光課 牧さんは地元ながら2588代の名人である。最近

は海外からの参加も多いという。「現在、名人は日本以外には18カ国にいます。春の『別府八湯温泉まつり』で毎年、新名人を表彰しますが、昨年はロシアから表彰式にいられた方もいました」(別府市観光協会 佐藤大輔さん)。

そして数があるからこそ、管理と保護も必要になる。共同温泉は「ジモ泉」と呼ばれ、市民の生活の一部しかし若い世代では温泉離れが進んでいる。「入浴客が減少すれば、ジモ泉の運営が難しくなります。観光客の人にも入ってもらって温泉文化を守っていかう」というところから、温泉道はスタートしました。ジモ泉は市内に100以上ありますが、地元の人以外でも入浴可能なところを、一昨年から温泉課の公式サイトで紹介しています」(温泉課 釘宮誠治さん)。

現在、湯量豊富な別府温泉郷であるが、2024年には「温泉マネジメント計画」を策定。持続可能な環境作り、地下資源の保護、未利用湯の適性管理、共同温泉の支援など4つの柱を基に、100年先まで温泉を残すべく動き出している。